

広報

まちづくり情報誌

小田原

city of odawara public relations

11 2007
NOV
/1月号



特集「教育問題」

教育はだれのもの

教育はだれのもの

特集「教育問題」

序章

教育に満足していますか？
調査結果に見る、意外なひずみ

教育問題への関心は高い

昨年度、初めて市教育委員会が行った「小・中学生の教育に関する市民満足度・重要度調査」

これは、小・中学生の教育の取り組みに対する満足度や重要度を、市内在住の18歳以上のかたから無作為に選び、答えていただいたものです。

小学生のいる世帯1,000人、中学生のいる世帯500人、それ以外の世帯1,500人の合計3,000人に送り、その回収率は、56・37パーセントにもなりました。無作為に抽出して行った調査としては、この数字は非常に高く、教育問題への市民の関心が高いことが分かります。今年度に行ったものは、現在集計作業中ですが、約59パーセントと昨年度を上回っています。

これを見ながら市内の小・中学校の抱える問題を考えてみましょう。

年代による違い

調査内容は、学校での指導や施設、道徳教育や教員の資質に関することなど、23項目と多岐にわたっています。一つ一つの項目への満足度・重要度をどう思うかということと、その理由も聞きました。

それをまとめた報告書を注意して読んでみると、幾つかの興味深い傾向に気がつきました。それは、回答者の「年代」に注目したときのことでした。

子どもは教育に無関心？

「19歳以下」や「学生」、つまり、最近まで小・中学校で教育を受けていた年代。いつてみれば「子ども」の年代は、総じて教育問題に対し「重要

ゆとり教育、2学期制の導入、いじめに不登校…。

昨今の学校教育は、変革と問題が続いている。

いや、問題があるからこそ

変革が続いているのだろう。

テレビや新聞紙上で、子どもたちや

教育現場の「問題」を伝える記事が、

連日のように流されているのが、

何よりの証拠だ。

「まさか、あの子が…」

問題を起こしてしまった子どもたちのことを

伝える報道で、

必ずといっていいほど耳にする言葉である。

普通の子が、

ある日突然思いもよらぬ行動に出てしまう。

そんなことを聞くにつけ、

こう思う人も多いことだろう。

「一体、学校で何を習っていたの？」

家族は何をしていたの？」

確かにそうである。

子どもを持つあなたは、

それに自信を持って答えられるだろうか。

子どもを持たないあなたは、

関係ないと思っているのではないだろうか。

教育をめぐる問題。

それはあまりにも深く、複雑だ。

今、私たちに何ができるのか。

何を知っているのか。

何を知らなくてはならないのか。

分からないことだらけだ。

今月の特集は「教育問題」

「教育」にさまざまな立場で

かわっている人たちに話を聞いた。

この特集号を読み終えたとき、

あなたは何を感じるのだろうか。

●教育政策課 ☎33 167 1



p.4-8

【第一章】

何を思う、

教育現場の人々

子どもは？ 先生は？



p.10-13

【第二章】

家庭教育の現場では

親の世代の座談会



p.14-15

【第三章】

頑固オヤジに

元気なおばちゃん

地域の役割を守る



p.16-17

【終章】

もう、評論家は要らない

教育はすべての人の問題だ

度が低く、満足度も低い」という傾向があります。つまり、「興味がない」と読み取れなくもありません。学校教育を受けている年代が、教育問題に無関心になっている可能性があります。

一方、「子どもがいる世帯」、つまり「親」が回答したと思われるものは、「子ども」とは逆に、総じて教育への「満足度が高い」のです。

大きな「ひずみ」が家庭に…

それを象徴的に示しているのが、「家庭における子どものしつけや道徳性」の回答です。「19歳以下」や「学生」は、突出して満足度が低いという結果になっていますが、「子どものいる世帯」は最も満足度が高いのです。家庭でしつけを受けている子どもは満足度が低く、しつけをしている親の満足度は高いという、皮肉な結果が出ているのです。こういった傾向が、あらゆる項目で見られます。なお、この調査結果のまとめは、9ページで紹介します。

本当はどうなのだろう

このように、自分でそうだと思っていることが、現実とは違っていたり、人によって全く受け止め方が違ったりすることは、よくあることです。特に教育は、方針や考え方が人によって大きく違うことがあるので、その傾向が強いかもしれません。テレビや新聞などのメディアは、興味深いところや特殊な事例を中心に報道することがあるので、注意しないと今の小・中学校の姿を曲がってとらえてしまうおそれがあります。

そこで、まずは「学校」取材しました。だれもが通っていたけれど、「今」がよく分からない教育の現場。そこにいる人たちは、何を思い、何を感じているのでしょうか。

今回の教育特集は、そこから始めます。

小学校の 人々

酒匂小で
聞きました

今回お話を聞いたのは、酒匂小学校の先生7人。授業が終わり、お疲れのところを集まっていたいただき、それぞれの思いを語ってもらいました。そして、児童は5年生と6年生の12人が集まってくれました。

若手中心の先生たちが、そろって
言っていた言葉は「子どもが大好き」



心に残る先生の言葉

どんなことがきっかけで学校の先生になろうと思ったのでしょうか。
半田歩先生 小学生のころ、とても内気

先生たちはこう思う

な子どもだった私に、なぜか担任の先生が何かを期待してくれているのを感じたことがあります。その先生が卒業式の日「あなたは大丈夫」と、本当に何げない言葉をかけてくれました。でも、なぜかそれが忘れられないんです。
こうした先生のちょっとした一言が心に残っていたり、小さいころに褒められたりしたことが、大人になっても影響しているという人は少なくないでしょう。

学校は何でも相談所？

学校の教育と家庭の教育に話が及んだときのことです。その境目はどこにあるのかという疑問に先生たちが答えてくれました。

竹内恵実先生 お父さんやお母さんとも、不安でしかたがなくなることがあると思うんです。私も子を持つ親なので感じるのですが、子どものことで不安になったとき、きっと学校が一番相談に行きやす

いと思うんですね。学校なら聞いてくれるって思うでしょう。

長山あかね先生 家庭のしつけの部分といわれていることでも、学校の中で教えられるときは、もちろん教えます。大切なのは「こんなことを学校でやっていますから、ご家庭でもお願いします」というような情報の共有だと思っていますね。子どものためという目的は一緒なのですから。

中妻理恵先生 大人にもいえますが、当

第一章



何を思う、教育現場の人々 子どもは？ 先生は？

教育を取り巻く環境は目まぐるしく変わっていますが、毎日、教育の最前線にいる先生たちはどう思っているのでしょうか。そして、教育を受けている子どもたちはどう感じているのでしょうか。

たり前のことを当たり前にやる難しさってありますよね。家庭で教えられることもありますし、学校で教えられることもあります。その当たり前と考えることを学校と家庭が一緒になって教えていけば、ともに歩んでいけると思うんです。

学校は小さな社会

廣瀬雅先生 漫画の「ドラえもん」に出てくるのび太くんが、褒められるシーンがあるんですね。のび太くんはのんびりしているけれど、人の痛みを悲しむこと

も、人の喜びと一緒に笑えることもできる。これが人として一生ついて回る集団生活の基本だと思います。人のことを自分のことと感じられるということですね。それと、今の子どもたちは「我慢をする」ということが苦手になっているというところを見聞します。人のことを思うために、自分が我慢をするということもあるでしょう。そういったことをしっかりと教えないといけないと思っています。力石和則先生 そうですね。自立という言葉があるけれど、自分を律する「自律」も子どもには必要だと感じます。

教育は人生が終わっても続く

教育の現場でも、昔と今の違いを感じることはあります。

森建志先生 自分が子どものころは、先生に連れられて川に行ったり、いろいろなところへ連れて行ってもらったりしました。でも、今は安全面に不安がありますよね。だから、そういう気軽なことができなくなっています。

力石先生 ある意味、伸び伸びとしたことがやりづらくなっているかもしれない。

そろそろ取材も終わろうとしたとき、竹内先生が「最後に」と話し始めました。

竹内先生 ちょっと壮大な話になってしまいましたが、「教育とは自分が死んでも残るもの」という感覚を私は持っているんです。だから、何でもいいので、自分が一生懸命やっている姿を子どもたちに残したい。そしてそれによって成長していつてほしい。大人である私だって、成長を止めることなく、生きていきたいと思っていますからね。

小学生たちはこう思う

大人たちがいろいろ考えている教育。その教育を実際に受けている子どもたちは、どう感じているのでしょうか。

「学校が好きな人！」と聞くと、元気な声で全員が「はい！」

「塾は勉強だけでしょ。学校は友達もたくさんいるし、いろんなことがあるから」「授業だって、先生の話だって、面白いよ」と、一斉に話し始めました。

「やっぱり給食だよ！」「休み時間に友達と遊ぶこと！」と、子どもは昔も今も



協力してくれた子どもたち。元気なポーズで「はい、チーズ！」

変わらないと思わせる一面です。

何をしているときに楽しいのかな

「放課後にサッカーをやっていると」「バスケットボールクラブが好き」と、テレビゲームという言葉が生まれませんでした。今の子は家でテレビゲームばかりしているというイメージを持っているかたも多いと思いますが、実際はそうでもないのです。確かにテレビゲームでも遊びますが、それが一番の楽しみという子ばかりではありません。

うそのない笑顔大切に

地域の活動である子ども会にもほぼ全

員が入っていて、「面白いおじさんとかおばさんに会えるから」などと、目を輝かせて話しています。

嫌な大人は「すぐ怒る人、キレる人」という声が圧倒的。でもね、きみたち、口うるさい大人も必要なんだよ。

取材中、最初から最後まで絶えなかった子どもたちの笑顔。

純粹に学校や地域の活動を楽しんでいる子と私たちの姿に、とても救われた気分になりました。もちろん、楽しいと思っている子どもたちばかりではないでしょう。

でも、どんな子どもでもこの輝くような笑顔を見せるときがあるのです。そういう時間を少しでも多くしてあげるのが、大人の役割なのでしょう。

中学校の 人々

城山中で
聞きました

学期末のお忙しいところ、にこやかに登場してくれたのは教員生活24年目の石井秀知先生と、28年目の有賀篤先生です。

そして、生徒代表の竹内さん、瀧本さん、高林さんの3人が取材に応じてくれました。

理科の石井秀知先生



社会科の有賀篤先生



先生たちはこう思う

小学校と中学校

まず、小学校と中学校の大きな違いと中学生に対して心掛けていることを聞きました。

石井先生 小学生のころは、体も小さいし、かわいいでしょ。それだけに「子どもだから」で許されてしまうこともあるかもしれません。中学生は大人の一步手前。だから大人として接するように気をつけています。中学を卒業したら社会人になる子もいるわけですから、本人たちの自覚を促しています。

有賀先生 まさしく大人の一步手前です

から、常識的なことを教える最後のチャンスだと思っています。例えば、はさみの持ち方とか、書類を人に渡すときの紙の向きなど、いわゆる社会人としての常識といえますか、大人としての常識の部分を教えますね。

授業の内容は時代とともに

一般的に「今の子は」と言われますが、実際に接していると自分のころと変わらないと感じている先生たち。しかし、授業の内容は変わってきているようです。

石井先生 理科に興味を持つきっかけに実験がありますが、教える内容はかなり変わってきていますよ。例えば、かえるの解剖。私を含めて中学生くらいの親の世代なら普通にやってきた実験ですが、今は小動物虐待と思われるので行いません。そのほかにも、昔は行っていた実験でも

安全面やカリキュラム上できなくなり、写真やビデオだけになりがちです。体験することは大切なことなのですがね…。

先生は忙しい

市教育委員会に「教職員多忙化検討委員会」が設置されるほど、先生は忙しい職業です。なぜ、そんなに忙しくなってしまったのでしょうか。

有賀先生 単純に考えられることは、週5日制になったことです。6日間でやっていたことを5日間でやるわけですから、1日にやることは単純に多くなる。あとは、評価のしかたが変わったことが大きいですね。

石井先生 そう、分かりやすくいうと、パソコンを使うようになってからだと思います。それまでとは比べものにならないほど、細かいところまで具体的に

評価するようになりました。多角的に生徒のことを評価できるのはとてもよいことですが、それに費やす時間も大変多くなっています。私たち教師としては、放課後には部活動の指導をしたり、生徒と何げない会話もしたりと、授業とは違うところで生徒と触れ合う時間を持ちたいと思うのですが、その時間が持てません。どちらがいいのか、分からなくなることがありますね。

中学生も忙しい

石井先生 子どもたちも忙しいですよ。学校の勉強をやって、部活をやって、塾でしょう。我々が中学生だったころと比べると確かに大変だと思っています。

有賀先生 中学から私学へ行く子どもが増えています。私は公立中学校も面白いと思います。性格も学力のレベルも

それぞれ違うのですから。一般社会でも
そうでしょう。いろいろな人たちが一緒
にやっていくことに、難しさもよさもある
んですよ。その体験は、絶対社会に出
てから役に立つと思っています。

中学生たちはこう思う

友達がいるから

取材に応じてくれたのは、城山中学校
3年生の竹内愛貴さん、瀧本壽来生さん、
高林沙帆さんの3人です。

口をそろえて言うのは、学校が好きと
いうこと。「友達には何でも話せるし、中
学になって初めて心から信頼できる友達
ができたかな、って思います」「学校では
友達とくだらない話もできるし、家にい
るより楽しいかな」。つまり、学校は友
達と会えるから楽しい。家族より友達と
いるときのほうが楽しいとは、親が聞く
と少し寂しいかもしれません。でも、だ
れもがそうだったのではないでしょう

受験を控えて

中学3年生の秋。目の前には「受験」
の二文字が。3人とも行きたい学校は決
まっていますが、それを相談したのは何

先生に必要なもの

有賀先生 子どもの気持ちを分かっ

でも話せる友達かと思いきや、そろって
「一番相談したのは、家族」。自分の人生
にかかわることは友達より親ということ
なのでしょう。

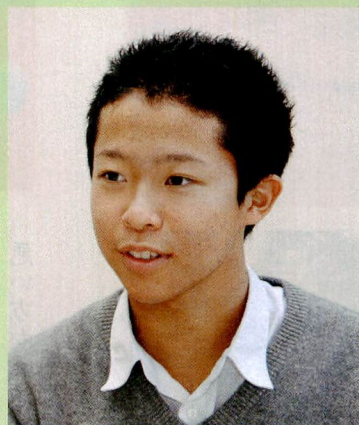
受験のことで、意外な話を聞きました。
今の中学生は塾通いは当たり前ですが「高
校受験をするには、学校で習ったことを
補いながら勉強しなくてはいけないから、
塾へ通っている」とのこと。「学校は、基
礎的なことを教えてくれるところだから、
受験に対応するには、自分の努力でやる
しかないでしょう」と話すのは竹内さん。
学校での勉強だけでは足りないのが常識、
という中学生たち。これも「ゆとり教育」
で授業数が減ったためでしょうか。

やる意味を知る

「確かにゆとり教育で授業数が減った
から、塾が必要ってこともあると思いま
す。でも、それ自体が悪いというのでは
なくて、例えば2学期制にしても、なぜ
やるのかという意味をしっかり理解する
ことが大切なのだと思います。それを知
らなければ、何をやっても結果は同じに
なるのではないかと思うんです」と、核
心をつく発言をしたのは瀧本さん。「理

ならないですよ。

石井先生 経験からいうと、本当にいろ
んな子どもがいました。
胸ぐらをつかんで、殴ってくる子もい
ましたよ。



竹内愛貴さん



瀧本壽来生さん



高林沙帆さん

でも、その生徒のことをあきらめちゃ
いけない。あきらめたとき、子どもはそ
れを敏感に感じます。捨てられたと思う
でしょう。人を育てるには、あきらめた
らだめだと強く思っています。

由は何であれ、『ゆとり教育によって自
分たちの学力が落ちていく』って言われ
るのは嫌な気分ですよ」と言う高林さん。
こちらも正直な気持ち。大人が決めたこ
とを、心のどこかで不満に感じていな
がらも、黙々と頑張っているのです。

今どきの中学生は

話を終えてみると、中学生はいつの時
代でも同じなのではないかと感じました。
子どもが大人に変わっていく、その途中
の微妙な年ごろ。それでも考え方はも
うりっぱな大人です。その時代の大人が
思っていることを、その時代の中学生も
同じように感じているのです。同時に
小学生と中学生を取材したので、そのこ
とを強く感じました。

半分子ども、半分子の中学生たち。
小学校の高学年から「自分のことをしっ
かり考えるようになった」と自分が変わ
ってきていることを自覚しています。
そんな彼らに「どんな大人になりたい
い？」と聞いたとき「優しいときと厳し
いときのめりはりがあって、自分の父親の
ようになりたい」と答えた子がいました。
家庭教育の大切さを見た気がしました。

悩んだ先生たちが 行き着いたところ

なぜ、学校に保護者が直接かわる必要があるのでしょうか。

もう、10年以上も前のこと。荒れた学校に悩み、スクールボランティアに行き着いた先生たちがいます。白鷗中学校の小田中大直先生もその一人。一体、何があったのでしょうか。

土足で歩く、たばこを吸う

「以前赴任していた学校の話なので、自分が話してよいものか」と最初は悩んでいた小田中先生。しかしスクールボランティアの意味を知るためには、その始まりを知ることが必要だとお願いし、話をしていただきました。

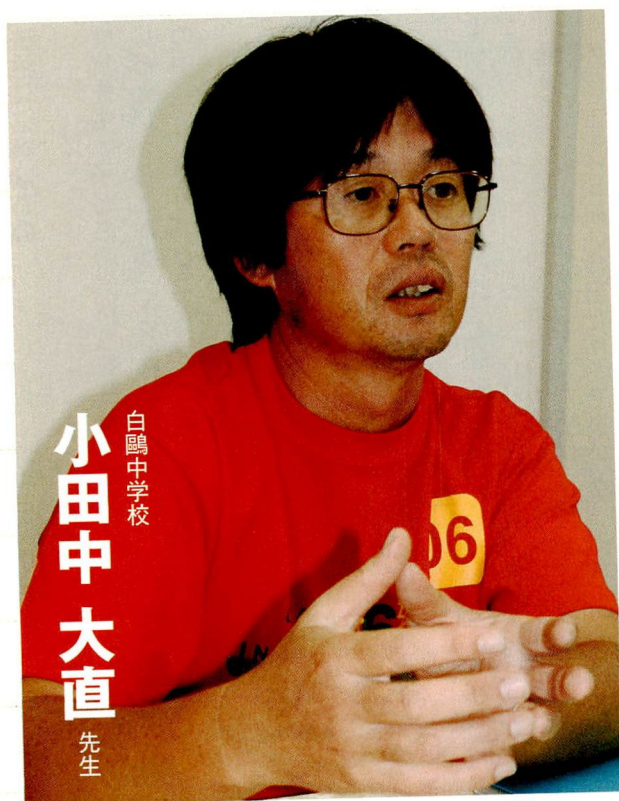
「確かに、荒れている学校でした。土足や校内での喫煙も当たり前。そんな生徒が、たくさんいたと思ってください。何を言っても相手にされませんでした。身の危険を感じることもありましたが、まずは教師同士の協力体制をしっかりと作りました。そして、当時の校長が、一つ一つ指示してくれました。『まず、土足をなくそう。次は、服装を正そう』と。家庭にもお願いしました」

地域に学校の現状を公開

じみちな努力を続けていましたが、学校でできることには限界があります。解決の糸口を見付けるため、地域の人に学校を見ってもらうことにしました。

地域の力、 それを見せつけられました 「～中学校は3年、地域は一生～」

保護者や地域の人々が学校や子どもにかかわり、それが教育の大きな力となっているスクールボランティア。今年度から市立小・中学校の全校で導入しました。その始まりには、こんな物語があったのです。



白鷗中学校
小田中大直 先生



▶スクールボランティアで花植え作業



「地域の人々が学校に入ると、意外なことに気づきました。先生の言うことを無視していた生徒たちが、友達の親の注意ならすなおに聞くのです。これこそ、地域の力だと思いましたよ。小さいころから何年も知っているということは、それだけで力なんです」

こうして「地域の力」に気づいた学校は、落書きを消すというようなことから手伝ってもらいました。それにより、学校の中で地域の人の役割が生まれ、生徒との触れ合いも活発になりました。まさしくスクールボランティアの始まりです。

そして、親の力

「卒業生が在校生を悪い方向へ誘うとい

う、昔からあった流れを断ち切ったのは、親の強さです」

ある母親は、そんな卒業生から自分の子どもを守るため、子どもの手を離さずに、毎日学校まで送り迎えしていたそうです。周りには大人でも震え上がるような顔が並んでいる中を、何か月も。

「その姿は感動的でした。『うちの子をどうするんだ』と彼らに自分の子を絶対に連れて行かせません。彼らは授業中でもお構いなしですから、私たち教師も毎日が戦争のようでした」

ただいるだけで

「中学校の先生が、子どもの成長を集中して見ることができるのは3年間です。でも、地域の大人たちは、子どもたちを小さいころから、一生見ていられる。これは素晴らしいことです」

学校が立ち直るまでは、先生やPTA、地域の人たちの熱心な努力があったとしても数年かかったそうです。

教育に即効性を求めるのは、酷なのかもしれません。それを知っているからこそ、先生は言います。

「自分の子だけじゃなく他人の子とも、一緒に過ごす時間を長く持つことが将来、力になっていきます。だから地域の子も私たちと触れ合ってほしいのです。それを簡単にできるのが、スクールボランティア。学校で、子どもたちを見守るだけでも大きな意味があると、私は思っています」

教育に満足していますか？

～市民3,000人に聞きました～

ここでは、昨年度の「小・中学生の教育に関する市民満足度・重要度調査報告書」を基に、学校や家庭での教育を市民がどう思っているのか、見ていくことにしましょう。

重要度と満足度ともに

最下位

(重要度：5点満点中2.77点)
(満足度：5点満点中2.55点)

「2学期制」

【意見】

- 3学期制と比較し、実際どのくらいのメリットがあるのか明確でない。(明らかな差があるのか?)／103件
- 夏休み前の区切り(節目)がない。だらけたまま夏休みになる。成績が悪くても挽回できるチャンスが減る。／79件

新しい制度だけに、なかなか浸透しない。
現在集計中の今年度の結果が、気になるところだ。



重要度は高めの

4.11点(5点満点中)

はっきりと意見を書いた人

78.65パーセント

「子どもよりも先生の道徳性や言葉遣いを指導してから、子どもに指導してほしい」など、学校の制度を批判するものではなく、もっと基本的なことに問題があるとしている意見ばかりである。



重要度

満足度ワースト

1位 3位

「家庭におけるしつけや道徳教育」

【意見】

- 子どもへのしつけができないし、しつけをするべき親にモラルがない。／81件
- 子どものしつけは家庭でしっかりやるべき。／64件
- 子どものしつけをする前に、親のしつけをしたほうがよい。「うちの子に限って!」という親が多い。／31件

大人を批判する意見が多い。
しつけは家庭で、という考えが一般的なのが分かる。

学校は勉強をする場所だけど

「学力の向上・学習意欲の向上」

満足度ワースト

2位

【意見】

- 授業参観へ行ったら、先生によって、教え方の分かりやすさ、理解しやすさが違うと感じた。／47件
- ゆとり教育で授業数を削減したことが、学力低下を招いたと感じている。／43件

学校や教育への不満が凝縮されている。明らかに保護者の意見というものが多いため、不満の内容がより具体的だ。

不満が根強い

教員の「指導力」「資質」「情熱」

(満足度ワースト4位・7位・8位)

【意見】

- とても熱心な先生と、そうでない先生の格差が開きすぎています。／90件
- 社会人のマナーが身につけていない人が教員免許を持ち、教壇に立てるのが不思議である。／79件

「一部の先生は信用されていない」という印象を持つ結果だ。先生という職業は特別なものであるという意識が根底にあるのだろう。



満足度が最も高いのは

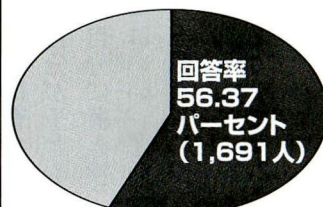
小・中学校敷地内の全面禁煙

(5点満点中3.98点)

【意見】

- 当たり前だと思います。／48件
- 教師が敷地内で吸えないので、門の外でみんな吸っている。子どもたちにはよくない。／24件
- 隠れてたばこを吸っているのを何度も見ている。常識を疑います。／22件

世の時流のとおり、禁煙は当たり前。禁煙を諭す先生が、喫煙していると説得力がないということか。



【調査概要】

調査区域

市内全域

調査対象

市内在住の18歳以上の男女3,000人(小学生のいる世帯に属する者1,000人、中学生のいる世帯に属する者500人、それ以外の者1,500人)

抽出方法

市住民基本台帳(平成18年9月4日現在)から無作為に抽出

調査方法

郵送による配布、回収

調査期間

平成18年9月15日～29日

この調査は、小・中学生のいる世帯とない世帯、男女とそれぞれ均等に行った。回答率は小・中学生のいる世帯のほうが17.6パーセント、そして女性のほうが13.4パーセント上回っている。小・中学生のいる世帯は6割近い回答があり、関心の高さがうかがえる。



こういった問題をこれからどう具体的に解決していけばいいのでしょうか。

次のページでは「親が考えていること」を聞いてみました。

家庭教育の現場では

「当たり前前と考えることを教えていきたい」という意見が教育現場の先生たちからありましたが、学校以外の時間を子どもと歩む家庭では「教育」をどうとらえているのでしょうか。今まさに「家庭教育」を行っている親の世代に座談会形式で聞いてみました。

家庭教育の現場では

湯川 教育は家庭、学校、地域で行うもの。しかし、それを私たち親自身がよく分かっているような気がします。ある母親が、下校途中の買い食いを子どもに注意せず、逆に学校に「店側にお菓子を売らないよう注意してほしい」と依頼したという話を聞いたこともあります。一般的に考えて、親が子どもにも一言注意すればいいだけの話で、それぞれの役割がしっかり理解できていれば起こらないはず。何でも学校や地域にお願いすればいいという話ではないと思います。

堤 子育てをしていて難しいと思うのは、わが家の方針が出しにくくなっていることです。門限やお金の使い方など、「わが家ではこう」と言いたいのですが、あまり厳しすぎると、子どもが周りから浮いてしまうのではと迷います。正しいこと、間違ったことは、はっきりと教えたいと思うのですが。



秋澤 学校での勉強は、子どもが夢を見つけたときの基礎知識になるはずですが、しかし、実際は詰め込み式の勉強だけで、頭はいいのかもしれないが、モラルは育っていない。子どもを育てるときは、それぞれの家庭の方針でいい。あとは子どもが自ら決めることだし、子育てに答えはないのだから。

仕事柄、「今の若い人をしかって」などと頼まれますが、今の子どもたちが親になったときのほうが怖いし、心配です。

田村 私は、自分が育ってきたように育てるのがやはり一番だと思います。自分が子どものころの話をすると、子どもは自分に置き換えて考えられます。「いいことはいい、悪いことは悪い」と当たり前前のことを教えるのが一番ではないでしょうか。

堤 以前と比べて、父親が子育てに参加するようにになりましたね。学校行事への参加率も高くなっているように感じます。

市PTA連絡協議会副会長 堤 千恵子さん

—男一女のお母さんは、毎日奮闘中!

鈴木 確かに、学校行事への参加率は上がっているように感じます。しかし、PTA活動への参加率は逆に落ちていきますね。会長こそ男性が多いけれど、役員はほとんどが女性。男性も行事には参加しても、役員などは忙しくなかなか引き受けていただけません。

田村 私もPTA活動に初めて参加するとき本当に勇気が必要でした。断りたい気持ちもよく分かりますよ。

鈴木 子ども会などの役員になりそうな団体には、初めから子どもを入れさせないという話も聞きます。親の都合を優先して、本当に子どものためになるのかしらと思います。「好きだからやっている」などと言う人がいますが、そんなことはありません。みんな子どもたちのためにと頑張っているのです。

親の世代の座談会

堤 周りから一歩飛び出るとたたかれるということは、大人も子どもも同じように感じます。大人の考え方や雰囲気子どもにも伝わってくるのか、周りを気にしながら意見を言うというような風潮もあるようです。

鈴木 エコ製品の洗剤やせっけんを使うのは、地球環境などの面からとても素晴らしいことと大人は考えますよね。しかし、子どもは製品特有のにおいなど一面だけをとらえ、みんなと違うからという理由で、からかう対象にすることもあるそうです。

益田 そう、周りから浮いてしまうのが、親の立場からでも本当に怖いですよね。いじめの対象になってしまわないかと、要らぬ気を回してしまいます。

おだわらっ子の約束は

秋澤 「おだわらっ子の約束（※）」は社会生活では本当に当たり前のことです。それをわざわざ書くことが寂しいし、怖いですね。ここまで声を大にしないといけない世の中になっちゃったのかと。

※17ページ参照

東富水小PTA会長

秋澤 祐一さん

口調がもの静かな、お坊さん



堤 「早寝早起き」という項目もありますが、

夜、スーパ―などに買い

物に行って驚くことは、

小さな子どもを連れた大人の

の多さです。寝るべき時間な

のに大人の都合で子どもを連れ出すのはどう

かと思うことがあります。

田村 居酒屋やスナック、映画館などに夜遅く出掛けても、子連れの客がいることがあります。子どもに留守番をさせられないからかもしれないが、感覚的に「おかしい」と思わないのか不思議です。

益田 大人が子どもの時間に合わせることも大切だと思います。子どもと大人は違うのですから。

鈴木 今の風潮として、親と子の関係が、親というよりむしろ友達という感覚に近かったり、子どもを親の持ち物のように考えてしまったたりしているのかもしれないですね。

湯川 先生と親の関係も一緒です。今までのような緊張関係がなくなっているように感じます。親が先生に敬語を使い、敬えば、子どもも自然と敬語を使うはずですよ。子どもが先生を呼び捨てにしても、親がしからないのは

どうかと思います。

鈴木 子どもの前で先生を批判するのは絶対にやってはいけないことだと思います。先生の威厳というものがなくなりますから。

秋澤 子どもには、ばかにしているという感覚はないかもしれないですね。ただ単に言葉が乱れているだけかもしれません。

堤 一番の問題は、使い分けができなくなっていることでしょうか。こういう場ではこの話し方、この服装など、時と場所、相手への印象を考えられるようになってほしいです。

秋澤 おだわらっ子の約束は子ども向けと

市PTA連絡協議会会長

湯川 貴裕さん

ふだんの仕事は技術屋さん



まずはできることからやっていくべきでしょう。

身がやるべきものと感じています。いくら学校が子どもに説明しても、家庭でやっていないと意味がないことになってしまいます。子どもとの時間を作るのに、仕事忙しいことは理由にならないと思います。

「いいことはいい、悪いことは悪い」と
当たり前のことを教えるのが一番ではないでしょうか。

先生へのお願い

秋澤 昔、大学の先生の講演会で、「いわゆる金八先生のような熱血の人ではなく、成績のいい人が採用されることが多く、サラリーマン化している」と聞きました。とても驚きましたね。子どもの教育を任せるべき「先生」がそれでいいのかと。

田村 先生は、人から「先生」と呼ばれ、敬われる立場。教壇に立たせるならば、その条件もしっかりと考えてもらいたいですね。当然、ある程度の社会勉強も必要だと思います。**湯川** 先生として採用するかどうかを決めるのもまた先生です。最近ではPTAなどの民間人も採用試験の面接に加わるようになりました。先生の採用について、こういう声が市町村にあることを県の教育委員会に伝えていけるといいですね。

鈴木 教師も親の私たちも一人の人間です。だからこそ、私たちは人間としての力を高めていかなければと思います。先生も迷い、遠慮がちで自信がないように感じます。もつと自信を持つて堂々としてよいと思いますね。

それから気になるのが通知表。昔はよい点・悪い点が書かれていたが、今はいいことだけしかない。学校での子ども

もの姿や教育方針など、親として伝えてほしいところが伝わってこないように感じます。

湯川 通知表などは、情報公開制度ができてから、公開されたときに備えて、悪いことでも

「悪い」と書けなくなつたような気がします。昔の5段階相対評価のほうが、分かりやすかつたように思えますね。

鈴木 モンスターペアレント(※)の話題がよく報道されますが、そのような例はほんの一握りだと思います。ほとんどの家庭は、学校と協力してやっていきたいと考えているはずで、学校側もきぜんとした態度で家庭側に踏み出してほしいですね。
※学校や担任教師へ自分の子どものために、理不尽な苦情や自己中心的な要求をする保護者を意味する言葉

地域の皆さんも大きな目で

堤 昔に比べると、親の世代もいろいろと話し合ったり、相談したりできる場所がなく

市PTA連絡協議会幹事 鈴木 敦子さん

自宅で「手作り子ども教室」をやっています

なつたように感じます。子どもは

もちろんのこと、入試などの教育制度も目まぐるしく変わっています。当然、昔のマニユアルは通じないし、だからといって相談する相手もない。本当に迷います。

益田 母親同士で話す機会が減つたように感じます。だから、子どもが友達を連れてきたときにおやつを出すべきかなど、わが家のルールに当てはめていいか悩んでしまいます。子どもも、同じように感じることもあるようです。

秋澤 自分が子どものころは、地域の大人にお世話になっていました。だからこそ、その恩返しにとさまざまな活動をしています。そう考える人が減っているのかもしれませんが、このままでは、地域の歴史が途絶えてしまう気がします。「忙しいから手伝えない」と言われるが、実際に活動している人に暇な人はいないんですから。

益田 このごろ、うちの子は「ゲームに飽きた」と言つて、ボールで遊ぶようになりました。しかし、遊べる場所がない。近くの公園に行っても「大声を出すな」と注意されるし、道路では危なくて遊ばせられない。

田村 確かに、公園などで大声を出して遊んでいると、近所の大人に怒られると聞きます。



子どもですから「うるせえ」などと反論すると、逆に「家庭のしつけがなっていない」と問題になってしまいます。

堤 昔の子どもたちも、やんちゃだったと思います。それでもあまり問題にはならなかった。大人の包容力がなくなってきたからなのか、それとも少数意見でも声が大きければ取り上げられるからなのでしょう。か。「悪い」との声はすぐに出るのに、「いい」との声はなかなか出ないですね。

鈴木 地域とのつながりも薄くなって、子育て世代を論ずる人がいなくなっています。だから、思い悩む気持ちに利害だけを考えるようになって、いきなり学校などに向かってしまうように感じます。

益田 地域が団結して盛り上がり、小さな文句であれば言わせない雰囲気にはできるはず。やはり、地域のかたの協力は必要なのです。

今こそ、家庭教育をしつかりと

湯川 今は、何事もビジネスライクに、そしてお金に換算して考えているように感じます。ボランティア精神などもお金にならないと。それが公共マナーの低下と、「自分だけがよければ」という風潮につながっている

のかもしれない。急いでいるからと信号無視をしたり、横断歩道以外を渡ったりすることも、

子どもがいる前では絶対やってはいけないことです。

鈴木 私たちの母の世代は子どもがすべてという考え方が当たり前の時代。



市PTA連絡協議会幹事

田村 洋一さん

元気なお父さんは、板前さん



今は、子どもも大事だが自分も大事。子育てに終わらず、女性も社会に出ることは悪いことではありません。ただバランスが取れず、子どもが犠牲になることも。時代の流れだからしかたがないことかもしれませんが、行きすぎて歯止めがきかなくなっているように感じます。核家族化や地域との希薄化もそれに拍車をかけているのでしょうか。

堤 教育は、子どもに自立してもらうためのものだと思います。机の上の勉強ではなく、本当に生きていくための力を身につけてもらいたいです。

益田 人とのつながりを大切にしていきたい。世代が違うからと切り捨ててではなく、長く生きている人なのだから、その声に耳を傾けて歩み寄れば、社会も子どもも変わっていくと思います。

田村 子育ては、順繰りにしていくもので、時代

とともに変わっていきます。世代間の差は、しかたがないのかもしれませんが。しかし、「道徳心」など、変わらないものはしっかりと伝えていかないといいけない。

情報化社会ではどんなに小さなことでも報道され、マスコミに踊らされているように感じます。「今の親は」というのも、昔からあったように思います。親の責任もあるとは思いますが…。

鈴木 子育ては脈々とつながり、受け継がれていくものです。

「今どきの親は」と言う世代に育てられたのが私たちで、その我々が子育てをしている。昔と同じようにやっているつもりなのに、なぜそれほど違うと言われるかは分かりません。ただ、親としては、子どもが幸せになればそれでいいと思っています。

人は環境や時代が育てるものなのですから。**湯川** 家庭内での教育をだれが担うのか、

しっかりと考えるべきだと思います。その責任は学校や地域ではなく、やはり家庭が担うべきものなのでしょう。

皆さん、子育て中の親ならではの苦労や悩みをそれぞれの言葉で語ってくれました。そこからは子どもの幸せを願う親心と、家庭での教育力が低下していることへの不安が感じられました。

**教育は、子どもに自立してもらうためのもの
机の上の勉強ではなく、本当に生きていくための力。**

頑固オヤジに元気なおばちゃん

（地域の役割を守る）

時代とともに教育は変わるといふ意見が、お父さんやお母さんたちからありましたが、「個人」があらゆる意味で尊重されている今、一番難しいのは他人の子どもとの接点ではないでしょうか。学校の先生でもなく、家族に小さい子がいるわけでもない、地域で活躍する大人たちに聞きました。

しかっているほうが多いよ

写真撮影で「子どもを呼んでいるように、にこやかに」とお願いすると「子どもを相手にしているときは、しかっているほうが多いからなあ」と笑う田嶋さん。人の子どもを注意できる、昔ながらの「頑固オヤジ」といってもよいでしょう。顔だちが優しいので、迫力不足かも。

「しかる大人が少なくなっただね」と寂しそうに話す田嶋さん。「今の親が悪いっていうけど、その親を育てたのは私たち団塊の世代なんですよ。きちんと伝えなかったことがあるんですね」まさに、自戒の念という語り口調です。

子どもの可能性

「子どもはね、責任を持たせれば、思った以上のことをこなしますよ。任せれば、一生懸命自分で考えて、やり通す。そういう強さを持っています」

みんなのお母さん

石坂さんは、民生委員児童委員の「主任児童委員」という立場で、学校では対応しきれない子どものさまざまな問題を、家庭や関係機関と協力して改善していく活動をしています。話しやすいその雰囲気から、やんちゃ盛りの

大人は自分の思っているルールの上に子どもを走らせようとする。それでは窮屈になり失敗を恐れる子どもになってしまいますよ」

小田原を好きになるために

「学生時代に小田原を離れたとき、初めて、小田原のよさを感じたんです。自分の身の周りにいた人たちを含めてね。今の子どもたちにも、自分の生まれ育ったまちを好きになってほしいでしょう。そうしないと将来の小田原が不安ですよ。もっと地域に出て、子どもたちと触れ合いましょうよ」

そんな田嶋さんが、最近一番感動した言葉。「小学生の女の子が、言っていたんですよ。『みんなと一緒に白鷗中学校へ行こうね！』って。ここが好きなんだなって、本当にうれしかったですよ」

いをしたいですし」

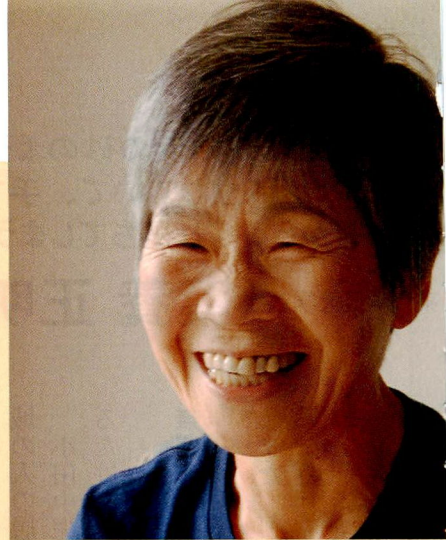
主任児童委員として活動を始めから13年たち、時には家族の問題に、その家族以上に取り組む石坂さんの言葉には、重みがあります。

子どものお手本は…

地域には子どもを育てるっていう「伝統」があると思います。それを途切れさせることはできないでしょう。

新玉小学校地区青少年健全育成協議会 会長
田嶋建一さん（56歳）

ろな経験を
ています。



子どもたちも気軽に声をかけてくる、地域のお母さんというのにびっくりしたのかたです。

周りが見えなくなる

「よく聞くのは、最近の若い親はだめだなあって話。私は、それは違うと思うのね。いい人はたくさんいるから。それに、自分の子どもは特別にかわいいものですから、自分たちが絶対に正しいと思うってしまう人もいます。だから、いろいろな人と接点を持つてもらいたいですね。親だって疲れ果てていますから、私たちもお手伝

子育ての先輩という視点から今の親世代へ一言。

「自分の子どもが何をしているか、把握していますか？まずは自分の子どものことを、きちんと見てあげてほしいですね」

そして、こう続けます。

「自分の子どもを見ていて私と同じことをしているって思ったことがあるの。自分も、自分の親に似ているって。『子どもは親の背中を見て育つ』というでしょう。だから、いい子を育てたいのなら、自分がよくならなくちゃ」

行動で示す

「昔は近所に『あの人に言われるのならしかたがないなあ』と、みんなから一目置かれていたが老人がいたものですよ。そういう老人に私たちがならなくちゃいけない。そこには当然尊敬の念があるわけでしょう。そのためには、やっぱり行動で示すしかない」

最後が大事

「最近の子どもたちは、缶けりをしながら学校から帰って来ないね。危ないからやめなさい、迷惑だからやめなさいって、最初からやらせないだろうね。もちろん、人に危害を加えるようなことは最初からやめさせなくちゃいけないけど、少しくらいのことはやらせるんだ。それで、最後にどうするかってことを教える。それは、その缶を自分で片付けるってことだね。後始末をしつかりやる。それが一番大切」

明日につながる言葉

「公園で話している高校生の周りにごみが落ちていたんですね。あとで拾っておいてくれと頼むと、自分たちが来る前からこのごみはあったと言う。そうかもしれないけど、『おじさん

だれにでもある「徳」

小瀬村さんは「報徳塾」で二宮尊徳の教えを3年間習いました。すべてのものに「徳」がある。「徳」とは「よいところ」という意味です。「朝起きるときにね、自分の徳って何だろうと考えたんですよ」

半年考えた結果、やっと見付けた答えは「健康だということ。それともう一つ、私はもう定年退職しているから、時間があるってことだ」。それには、どういう意味があるのでしょうか。

「気がついたことを行動に移せるんだよ。道にごみが落ちていれば拾う。それが人の役にも立つでしょう。健康で時間があれば、やろうと思ったことが、できるんだよ。考えているだけじゃない。行動に移せるんだ」

私が大切だと思うのは、
「どういう人生を送りたいのか」ということ。
子育ても「どういう子にしたいのか」ということ。

老人クラブ連合会 会長

小瀬村武二さん (79歳)

人のため？ いいえ、いろいろ
積んで私も成長しているの。
だから自分のためだと思う

民生委員児童委員 主任児童委員

石坂照子さん (62歳)

核家族、そして地域とのつながり



1963年の流行語であった「核家族」という言葉。今回の取材でも、核家族化が進んだことを悪因の一つと挙げたかたが多かった。葉養教授は核家族の問題を語るとき、昨今よく聞くようになった「モンスターペアレント」を引き合いに出した。

「今の家族は、砂浜の砂のようなものなのです。それぞれが孤立していて、手ですくい上げれば、指の間からこぼれ落ちてしまう。昔は、こぼれ落ちないようにそこには共同体となるものがあって、家族を救っていた。それが弱くなった今、自分の利害を強烈に主張する人たちが、直接校長室へ向かってしまうのです。ここでいう共同体とは何か。それは地域社会です。地域社会と学校や家庭を結び役割の人が必要なのです。そういった動きが最近、始めていますよね。要は、学校に地域の人の居場所を作ればいいのです」

無関心から実践者へ

また、何の問題でもそうだが「自分とは関係ない」と思ってしまうと、そこから何も進まなくなってしまう。葉養教授は、こう危惧する。

「どんな団体でも、『会長』のようなトップに立っている人は意見を主張できるんです。どうすればいいか分かっているし、意見を言うためのルートがあるからです。」

また、しばしば見られる『声の大きい人』つまり意見を強く主張できる人たちですね。そういう人は、自分の意見を言うことに慣れていますから、言うルートも知っています。でも、トップにいない人や、自己主張を強くない、最も多いと思われる人たちは意見をどこへどう伝えたらいいのかわからないのです。そうなるとうなるか。あきらめてしまいい、無関心になります」

では、どうしたらよいのだろうか。

老人会の小瀬村さんがこんな話をしていた。「散歩をしていたら、高校生がたばこを吸っているところを見つけたので彼らに声をかけました。正直言うとおじさんも、きみらの時分にはたばこを吸ったけど、高校生でたばこを吸うことは法律を犯していることだから、悪いことをしているという気持ちでこそそこそ吸ったよ。でも、きみたちは堂々と吸っている。この違いはすごく大きいと思うんだよ、とね。すると『そうですよね』って頭をかきながら火を消したよ。言えば分かってくれるんだ」

もう評論家は要らない

have no use for commentators

教育はすべての人の問題だ

ここまで多くの人々の話を伺ってきたが、それぞれの立場で語っていただいた言葉の中に、印象的なものが数多くあった。最後に、教育の専門家である東京学芸大学教授 葉養正明さんの話を交えて検証してみたい。





▲地域とのつながりを深める行事



▲子ども会は地域社会と触れ合える



はようまさあき

1949年千葉県生まれ。東京教育大学／筑波大学助手、東京学芸大学講師、同大学助教授を経て、1999年より同大学教授。専門は、教育制度論、地域教育計画論

- 1 早寝 早起きして 朝ご飯を食べます
- 2 明るく笑顔であいさつします
- 3 「ありがとう」「ごめんなさい」を言います
- 4 人の話をきちんと聞きます
- 5 もったいないことをしません
- 6 どんな命でも大切にします
- 7 決まり 約束を守ります
- 8 人に迷惑をかけません
- 9 優しい心で みんなと仲良くします

こを吸っていた。学校ではどういう教育をしているのか」と。
その校長は、こう答えた。「それなら、なぜそのとき、あなたが注意をしてくれなかったんですか」
つまり、傍観者であってはならないということだ。今、自分がやれることをやればいい。
ここで、今年の1月に市教育委員会が作った「おだわらっ子の約束」を改めて見てみよう。これは、子どもたちに取り組んでほしい、身につけてほしい、しつけや生活規範をまとめたものだ。

⑩「悪いことは悪い」と言える
勇気をもちます

「親の世代の座談会」でお父さんは「社会生活では本当に当たり前のことです。それをわざわざ書くことが寂しいし、怖いですね」と語った。中学生も「当たり前すぎて、きつとこれは小学生とか小さい子のためのものだと思う」と話した。それが、普通の感覚だろう。

しかし、改めて一つ一つ、あなたに当てはめて考えてみてほしい。この当たり前のことをすべて、自信を持ってやっていると言えるだろうか。子どもは敏感だ。大人がやることをしっかり見ている。大人ができないことを、子どもはやろうとするだろうか。

おだわらっ子の約束。それは、子どもだけに発している約束ではない。子を育てる親、そして、すべての大人へのメッセージと考えられなくはないか。
最後に、葉養教授の言葉でこの特集を締めくくりたい。

もう、地域に
教育評論家は要りません。
一人一人が
教育の実践者だということに、
気がつけばいいのです。



行革レポート

今年も52件の提案が集まりました！
「職員提案」審査会を開催

問 行政経営室 33 1 3 0 5

職員が自らの業務の枠にとらわれず、さまざまな視点から柔軟な発想で施策や事業などの提案を行う職員提案。昨年度、リニューアルし、子ども連れのかたが利用しやすいように配慮した施設にシンボルサインを表示する「子育てにやさしいまなざし事業」と、市民と協働しながら、地域ごとに案内板を設置して原風景を巡るコースを案内する「ふるさとの原風景を歩く会」の2件が事業化に結びつきました。

今年度も多くの職員から52件の提案があり、公募の若手職員7人から成る「職員提案ヤングコミッティ」で予備審査を行いました。審査を通過した7件の提案者は、10月9日に市長や部・局長を委員とする審査会で提案内容を発表しました。



【主な提案の概要】

- 災害に備えて各地区に配備している職員の研修・訓練を充実し、地域の自治会などとの連携を強化する「配備職員のスキルアップ」
- 小田原城二の丸と三の丸地区の空間をイルミネーションで飾り、小田原の都市美を光で象徴する「イルミネーションによる光の都市美スポットの創造」
- 公共施設の屋上を苔で緑化して、二酸化炭素の削減と、断熱効果でエネルギー消費を抑える「既存公共施設の屋上を苔によって緑化推進」
- 市のホームページに、だれもが自由に使える小田原の写真素材集を開発し、多くのかたが活用することによって自動的に小田原の魅力発信につながる「小田原素材集の開発」

これらの提案は、必要に応じて予算化・事業化の検討を行います。

今後、この職員提案と年間を通して行っている業務改善提案活動を両輪として、職員の創意工夫を生かした行政サービスの品質向上に取り組んでいきます。

おだわら情報

11月は不法投棄撲滅強化月間

「不法投棄をしない！ させない！ ゆるさない！」

問 環境保護課 33 1 4 8 6

環境事業センター 34 7 3 2 5

最近、業者が捨てるような産業廃棄物よりも、一般の人が捨てたと思われる家電製品・家具類など、家庭で不要になったものが多く見られるようになった不法投棄。これが大きな問題になっています。

不法投棄は犯罪です。ごみをむやみに投げ捨てると法律で罰せられ、5年以下の懲役や1,000万円以下の罰金などの罰則も。



円以下の罰金などの罰則も。市でも、さまざまな対策を行っています。私たち一人一人がモラルを持って生活しないことには、不法投棄のないまちは実現しません。

「不法投棄をしない！ させない！ ゆるさない！」という気持ちを持ち、自らの手できれいなまちにしていきたいと思います。

「不法投棄を防止するために」

- 環境事業センターでのごみの引き取り（有料）
ごみを直接、環境事業センターへ持ち込めば、有料で引き取ります。引き取れないごみもあるので、事前にご相談ください。
- パトロールの実施
市職員や委託業者が随時パトロールを行い、投棄者を特定できた場合は、警察に通報しています。
- 夜間パトロールの実施
県や警察などと協力して、夜間パトロールを行っています。
- 啓発用看板の貸し出し
不法投棄で困っているかたに、看板を貸し出しています。ご希望のかたは、環境保護課にご相談ください。

秋季全国火災予防運動

火は見てる あなたが離れる そのときを

問 予防課 ☎ 49 4 4 2 5

市内の火災発生件数は、平成17年が73件、平成18年は69件と減少したものの、今年は9月末現在で、すでに52件の火災が発生しています。

出火原因のトップだった放火は、最近では大幅に減少しています。これは、市民の皆さんが行っている防犯パトロールが、地域の防犯だけでなく防火にも効果をもたらしているからだと考えられます。

一方で、こんろやたばこによる火災は後を絶ちません。どれも未然に防げたものばかりです。

そこで市では、一般住宅に設置が義務化された住宅用火災警報器を早く設置してもらおうと、市民の皆さん



んを対象に説明会を開いたり、相談を受け付けたりしています。市内でも、この警報器により、火災を早期に発見し、大ごとにならないかったという事例があるほどです。

11月9日(金)から15日(木)までの秋季全国火災予防運動を機に、各家庭の住宅防火対策をもう一度見直しましょう。

【住宅防火 いのちを守る 7つのポイント】

3つの習慣

- 寝たばこは、絶対にやめる。
- ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使う。
- ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

4つの対策

- 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- 寝具・衣類やカーテンからの火災を防ぐために、防災品を使う。
- 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器などを設置する。
- 高齢のかたや身体の不自由なかたを守るために、隣近所との協力体制を作る。

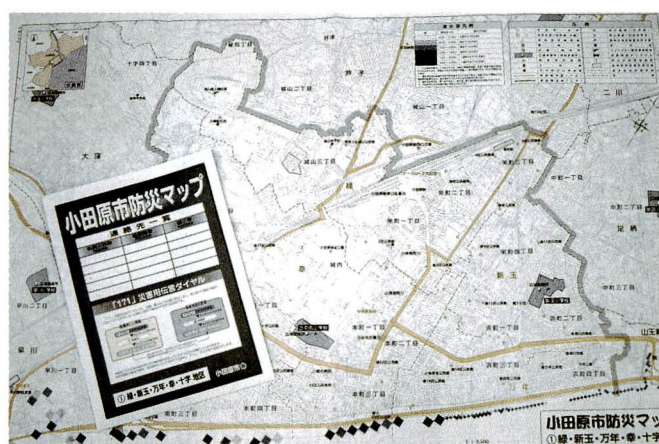
防災ひとくちメモ 防災マップを一新!

問 防災対策課 ☎ 33 1 8 5 6

いつ起こるか分からない災害に立ち向かうには、「日ごろの備えと地域のきずな」が大切。一人では不可能なことも、地域のかたと協力することで力が何倍にも増すだけでなく、さまざまな知恵も出てきます。

そこで市では、市民の皆さんがいえるよう、最新の防災情報を掲載した「防災マップ」を作りました。

この地図は、平成18年11月に設置した、自治会と民生委員で構成する



「防災マップ作成委員会」で、その用途や掲載内容などを検討したものの利用するかたの視点に立った地図になっています。

この地図を基に、地域の皆さんで話し合っ、それぞれの状況に合った情報を加えるなどして、地域版防災マップに仕上げてください。

【主な変更内容】

- ① 縮尺：一万分の一から、家屋や道路が識別できる三千分の一、五千二百分の一に。
- ② 地区割：市内を5分割した5図面から、原則、連合自治会ごとに分割した18図面に。
- ③ 津波浸水予測図：平成18年度に県が発表した、「神奈川県西部地震に対する津波浸水予測図」を追加。
- ④ 防災倉庫・公民館など：自主防災組織の活動に必要な自治会の防災倉庫と公民館などを記載。
- ⑤ 緯度・経度：広域応援部隊が支援の必要な場所へ適確に移動できるように、緯度・経度を表示。

【配布方法】

市役所、支所・連絡所、マロニエ、いずみで希望者にお渡しします。

おだわら
情報

宿泊！街かど博物館体験ツアー 参加者募集

商 産 業 政 策 課 ☎ 331519

小田原には古くから栄えた産業文化を今に伝える地域資産がたくさんあります。かまぼこ、漬物、菓子、梅干し、そして木工などの地場産業がその代表的なものです。それらの展示や説明に工夫を凝らし、さらには体験を通して、ひと・製品・もの作りの結びつきを知ってもらい、小田原の魅力を高めようとするのが「街かど博物館」です。

この魅力を市民の皆さんはもちろん、市外のかたにも知ってもらい、



漆器体験のようす

小田原のファンを開拓し訪れるかたを増やそうと、街かど博物館体験ツアーを開きます。

東京や横浜などに住んでいるお友達を誘って、晩秋の街かど博物館を楽しんでみませんか。

日程

11月25日(日)8時45分 小田原駅西口集合(宿泊は小田急箱根レイクホテル)

26日(月)16時30分 小田原駅西口解散

内容

〔1日目〕箱根観光・散策、遊覧船、寄せ木細工体験など〔2日目〕街かど博物館体験、石垣山一夜城散策など

費用

1万8千円

定員

24人

11月10日(土)までに、住所・氏名・電話番号などを、ネイチチャートレイル(☎242001)か、産業政策課まで電話で。

旅行企画実施 ネイチチャートレイル
体験企画 街かど博物館館長連絡協議会

※体験で作ったものは持ち帰れます。
※参加者には漏れなく、寄せ木小物をプレゼント！

おだわら
情報

応援します！「市民活動」

商 地 域 政 策 課 ☎ 331708

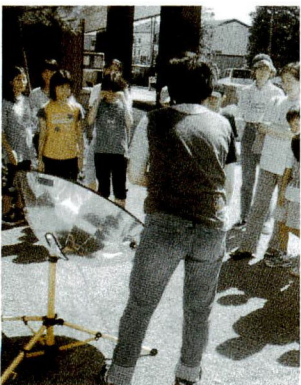
「地域や社会のために、自分のできることとにいかやってみよう！」。そんな気持ちがパワーの源の市民活動。団体での活動だけでなく、個人の取り組みも含まれ、その活動分野も、福祉、環境、国際協力などさまざま。いわゆる「ボランティア活動」も市民活動の一つです。

最近では、団塊の世代のかたが定年退職を迎え、在職中に培った技術や能力を発揮する場の一つとしても注目されています。

市では、これまでも、市民活動に補助金を出したり、ボランティア保険に加入して万一に備えたりと、皆さんの活動のサポートをしてきました。

そして今回、さらに活動しやすい環境作りのために、そのサポート体制をパワーアップ。

その一つが、「まちづくり市民サ



温暖化防止アクショングループの活動風景

ポーター」制度。市民活動や自治会などの地域の団体の活動にかかわりたい、手伝いたいというかたが登録する人材バンクです。パソコンの知識など、技術や経験、ノウハウを持つっているサポーターも多く、活動を広げたい団体の強い味方となるでしょう。

もう一つは、「プロジェクトの貸し出し」。最近では、会議やイベントなどに欠かせない機材として、多くの場面で活用されています。実物投影の機能も備わっているので、お気軽にお使いください。

皆さんの活動が、より住みやすい豊かなまちづくりにつながる新しい力となるはず。市では、その貴重な活力を応援していきます。

サポセン祭り

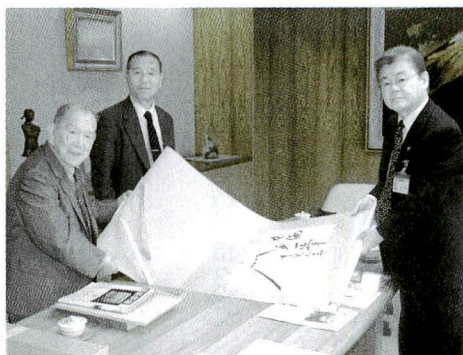
市民活動をしている団体の活動紹介や展示、体験などの楽しいイベントです。実際に活動しているかたと直接触れ合えるチャンスをお見逃しなく！

日時 11月11日(日)10時～15時
場所 マロニエ

寄贈された松永耳庵の書を公開！

◎郷土文化館 ☎231377

戦前から戦後にかけて日本の電力事業を飛躍的に発展させ、電力王とも呼ばれた松永耳庵（本名 安左エ

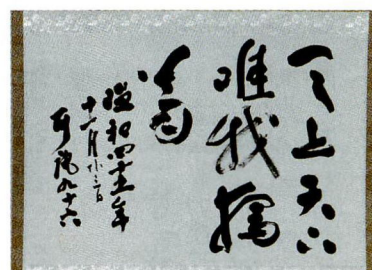


6月28日に寄贈いただきました。
左から、小宮さん、晩年の耳庵を世話した藪田和夫さんと小澤市長。

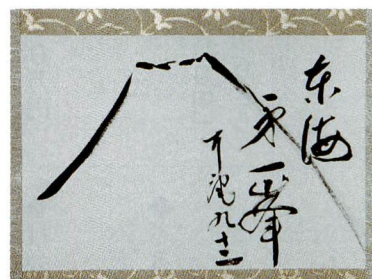
門1875〜1971）。益田鈍翁、原三溪と並び、日本の近代三茶人の一人です。

今回、松永記念館で展示するのは、その耳庵による書「天上天下唯我独尊」「東海第一峯」そして「青葉若葉 一目の内や老樺荘」の3点。

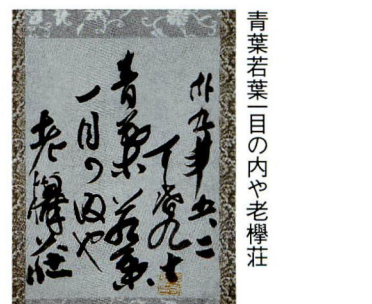
特に「天上天下唯我独尊」は、耳庵が好んだ言葉の一つ。著書『人づくり国づくり』で「何事も自分が責任を持つとともに善なり、美なり、真なりという確信を持ち得る決意が必要」という意味であると述べています。ほかの二つの書からも、一見自由奔放ながら自らに厳しく、深く内面を



天上天下唯我独尊



東海第一峯



青葉若葉一目の内や老樺荘

も見つめていた耳庵の人柄がうかがえます。

これらの貴重な書は、今でも敬愛している耳庵がいつまでも忘れられないようにと、箱根「はつ花」蕎麦の創業者・会長の小宮義一さんから市に寄贈されたものです。

耳庵は、晩年を過ごした板橋で、毎秋に政財界人を招いて園遊会を開き、ここでふるまわれていたのが、小宮さんの「耳庵そば」。耳庵はも

ちろんのこと参加者からも絶賛され、これが縁で耳庵との交流を深め、書を贈られる機会に恵まれました。皆さんもぜひ、書を通して松永耳庵の人柄に触れてみてください。

日時 11月10日(土)・11日(日)
9時〜17時

場所 松永記念館別館
※「板橋秋の交流会」に併せて初公開します。

タウンミーティング

～市民と市長とのほつと懇談会～

◎広報広聴室 ☎331263

市の目指す方向性や取り組みを市民の皆さんと話し合う「タウンミーティング」

今年度は、おだわらルネッサンス推進本部で取り組んでいる「活力あるまちづくり」「人に優しいまちづ

くり」「まちなみが美しい街づくり」の3つの視点から、小田原のこれらを考えます。

明日の小田原の姿を一緒に描いていきましょう。

日時 12月1日(土)10時〜12時
場所 城北タウンセンターいずみ
テーマ

人に優しいまちづくり／小田原の子育て支援について考えよう

※テーマ以外のことも自由に発言できます。

※託児（2歳以上就学前まで）や筆記・手話通訳が必要なたは、開催日の1週間前までにお申し込みください。



7月24日開催のタウンミーティングのようす

市議会9月定例会



問 総務課 ☎33-1291、財政課 ☎33-1312

市

議会9月定例会は9月3日から10月10日まで開かれました。審議された主な内容は次のとおりです。

- 専決処分の報告（事故賠償3件）
- 平成19年度一般会計補正予算
- 平成19年度競輪事業特別会計補正予算
- 平成19年度天守閣事業特別会計補正予算
- 平成19年度国民健康保険事業特別会計補正予算
- 平成19年度病院事業会計補正予算
- 市情報公開条例等の一部を改正する条例
- 市議会議員及び市長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例
- 一般職の任期付職員の採用等に関する条例等の一部を改正する条例

● 非常勤の特別職職員の報酬等に関する条例の一部を改正する条例

● 市職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例

● 市税条例の一部を改正する条例

● 自転車競走実施条例の一部を改正する条例

● 企業立地促進条例の一部を改正する条例

● 都市計画法に基づく市街化調整区域における開発許可等の基準に関する条例の一部を改正する条例

● 訴えの提起

● 土地開発公社定款の一部変更

● 平成18年度一般会計歳入歳出決算ほか（全12会計）決算の認定

● 平成18年度一般会計継続費精算報告書

● 教育委員会委員（桑原妙子さん）の任命

● 公平委員会委員（田村清美さん）の選任

● 固定資産評価審査委員会委員（川口眞男さん）の選任

● 人権擁護委員（鈴木洋子さん）の推薦

● 土地の取得（小田原駅東口お城通り地区再開発事業用地）

● 工事請負契約の締結（史跡小田原城跡馬出門櫓形 門・土塀復元整備工事）

● 割賦販売法の抜本的改正に関する意見書

● 9月定例会の議案は、行政情報センター（市役所4階）、支所・連絡所でご覧になれます。詳しい審議の内容は、「市議会だより11月1日号」をご覧ください。

平成19年度9月補正予算の概要

■ 一般会計補正予算

〔16億5,251万円追加〕

■ 競輪事業特別会計補正予算

〔1,587万円追加〕

■ 天守閣事業特別会計補正予算

〔485万円追加〕

■ 国民健康保険事業特別会計補正予算

〔253万7千円追加〕

■ 病院事業会計補正予算

〔4,536万1千円追加〕

この結果、全会計予算額は、1,458億4,057万1千円となりました。主な内容は、次のとおりです。

● 広報費…重要な情報をタイムリーにお知らせするため、広報おだわらの臨時号を発刊します。

● 老人福祉費…夜間対応型訪問介護サービスを広報する費用を助成し

なお、「寄附者一覧」のとおり、ご寄附をいただきましたので、そのご意思を生かせるように、各基金に積み立てます。

【寄附者一覧】（敬称略）

◆ ほう賞基金寄附金〔合計300万円〕

△守屋喜代松

◆ ふるさと文化基金寄附金

〔合計179万4,400円〕

△(株)ユニバーサル技研△小田原きらら倶楽部△神奈川県小品盆栽連合会

△湘南ステーションビル(株)

ます。

● 障害者福祉費…障害者自立支援法の定着のため、利用者負担の軽減や激変緩和措置などを行います。

● 道路新設改良費…市道0058・0071の用地を購入します。

● 非常備消防費…消防団員の安全装備品を購入します。

● 文化財保護費…史跡小田原城跡（三の丸外郭新堀土塁）整備のため、アジアセンターODAWARA跡地を購入します。

● 小田原駅東口再開発用地購入費・コンベンション負担金（債務負担行為の設定）…小田原駅東口お城通り地区再開発事業の整備を進めます。

● 災害復旧費…台風9号により、大きな被害を受けた酒匂川スポーツ広場などの復旧を行います。

◆ 社会福祉基金寄附金

〔合計3万3千円〕

△米田英行△匿名

◆ ふるさとみどり基金寄附金

〔合計19万606円〕

△エコライフフェア運営事務局△(株)サンフジ企画△小田原さつき会△あいおい損害保険(株)△小田原庭園業組合

△(株)ユニバーサル技研△小田原きらら倶楽部△神奈川県小品盆栽連合会

△湘南ステーションビル(株)

△(株)ユニバーサル技研△小田原きらら倶楽部△神奈川県小品盆栽連合会

△湘南ステーションビル(株)

△(株)ユニバーサル技研△小田原きらら倶楽部△神奈川県小品盆栽連合会

△湘南ステーションビル(株)

△(株)ユニバーサル技研△小田原きらら倶楽部△神奈川県小品盆栽連合会

△湘南ステーションビル(株)

△(株)ユニバーサル技研△小田原きらら倶楽部△神奈川県小品盆栽連合会

△湘南ステーションビル(株)

白秋と小田原

国民的詩人の北原白秋が、故郷の次に長く暮らした土地、小田原。家庭的にも、また創作活動の面でも、最も充実した小田原での年月で、白秋は私たちにすてきな贈り物を残してくれました。



白秋からの贈り物

小田原をこよなく愛した白秋。その生涯で創作した童謡作品は1,200編余り。そして、その約半数の作品が、ここ小田原で誕生しました。「赤い鳥小鳥」をはじめ、今年、文化庁と日本PTA全国協議会が、親子で長く歌い継いでほしいと選定し

た「日本の歌百選」にも選ばれた、「私たちの花」「この道」「揺籠のうた」など、曲名を聞いただけで口ずさみたくなるような作品ばかり。多くの人に親しまれ、今もお愛され歌い継がれています。

その思いを後世に

小田原の自然と文化を感じながら作品を残した白秋。その中には、散歩をしながらできた作品も。例えば「からたちの花」は、水之尾への道を歩いて、からたちの花に心を留め、この歌が誕生したと随筆に書いています。

その道からの眺めを、「丹沢大山と、箱根の両方が見えて、一折ごとにちがった新しい情景が目に見えてくる。丘窪の蜜柑畑などはまるごと野外劇場の観客席のやうに円形で後高に段々になつてゐる」と白秋は絶賛。市では、白秋とその作品を大切にするため、白秋の歩いた道をたどりながら、白秋が感じた思いと素晴らしい情景が感じられる道を、看板を立てるなどして紹介していきます。これからは、散策にちようどよい季節。木々が織り成す美しい紅葉を感じながら、白秋の愛した小田原を実感してください。

今もなお、変わらずに歌い続けられている童謡。童謡を聴くとなぜか、心が安らぎ和みますね。

きっとそれは、だれしも心の中に子どものころの純粋な気持ちがあるからでしょう。

小田原に住んでいた北原白秋は、小田原の道を歩き、たくさんの歌を残しました。

☎生涯学習政策課 ☎33-1712



城南中学校の北側にある道。白秋はここを歩いて、童謡を作りました。

白秋の歩いた道

再発見！白秋の魅力

市では、小田原文学館に白秋童謡館を併設したり、平成12年度から「全国童謡フェスティバル～白秋 IN 小田原～」を開いたりするなど、白秋の魅力とともに、童謡をはぐくんだ小田原の宝を感じられるイベントを行っています。

11月17日④・18日⑤の城下町おだわらソーデーマーチでは、前日の16日③に参加者対象のプレイベントを開催。白秋の散歩道をテーマにした「せっかくウオーク～白秋童謡コース～」をお楽しみください。

没後65年 白秋の散歩道を歩いてみませんか



「Let's あいさつ」キャンペーンで校門に立つ生徒

連載

学校自慢!

このコーナーでは、小・中学校でのユニークな取り組みを紹介します。子どもたちの生き生きとした表情を見ると、小田原の未来も安心!という気持ちになりますね。

教育政策課 ☎33-1671

今月号は…

泉中学校

(生徒数: 695人)



未来への可能性を開く
泉中スピリッツ!!

現在、泉中学校では、「泉のサシミ(3・4・3)」を合い言葉に、さまざまな活動に取り組んでいます。これは、学校をさらによくしていくために校長が考え、提言したもの。「家庭や地域社会とも連携を深め、生徒の心身が健全に成長するような豊かな学習環境を」との願いが込められています。

自分たちの力で「よりよい学校」にしていくための生徒会のスローガンとして、また、PTA活動の指針の一つとして、全校が一体となってこの合い言葉に取り組んでいます。

生徒たちは、運動会や合唱コンクールなどの行事でその力をいかに発揮しています。また、卒業式は厳粛な中にも創意工夫を凝らし、「とても感動した」という声が多く寄せられています。

「泉のサシミ」で、この学校の未来への可能性を開き、さらに前進していきたいと考えています。

【泉のサシミ】

● 3原則……

- ① あいさつ
- ② 整理・整頓・清潔
- ③ まじめな学習

● 4つの心……

- ① もったいない心
- ② みつともない心
- ③ かわいそうだよ
- ④ がんばろうよ

● 3つの言葉……

- ① ありがとう
- ② そこがよいよ
- ③ がんばってるね

泉中生徒会では、「チャイム着席」・「Let's あいさつ」・「服装キツリ」の3大キャンペーンや募金活動、各種委員会活動などに力を入れています。チャイム着席と服装は、チェックシートで、あいさつは、朝、門の前でしています。これらは効果が出ているので、これからも続け、いろいろなことにチャレンジして頑張っていきたいです。



わたなべ あきこ
渡部 安紀子さん
(2年生)

「泉のサシミ」は、昨年の4月に田島校長先生が考えた泉中の合い言葉です。これを基に、運動会やいずみ祭、合唱コンクール、生徒会活動でもキャンペーンを行っています。この「泉のサシミ」が、みんなの心をつにし、私たちの力の源になっています。生徒会でも、学校をよりよくするための活動を行い、「泉のサシミ」を広めていきたいと思っています。



うち の みき
内野 美咲さん
(3年生)

おだわら

花通信

さまざまな花に彩られ、四季折々の表情を見せるおだわら。毎月、花の名所を紹介します。

その8

小田原フラワーガーデン 鈴木三郎さん宅

問フラワーガーデン ☎34-2814

朝夕ひとさわ冷え込むようになりました。この季節に見られる花の一つに、最近人気の「木立ダリア」(別名「皇帝ダリア」)があります。キク科の仲間でもメキシコ地方が原産。背が高く4メートルくらい伸び、秋深い11月ごろ、やや紫を帯びたピンク色の花をたくさん咲かせます。

気象条件にもよりますが、県立おだわら諏訪の原公園とフラワーガーデンで見られます。

もう一つは、フラワーガーデンから程近い、久野のバス停「ざる菊園前」の鈴木さん宅の「ざる菊」です。小菊が集まり、ざるを伏せたように見えるところから、こう呼ばれています。花の咲くころには自宅の庭を開放して、見学できることから、毎年たくさんのかたが訪れます。

詳しくは、フラワーガーデンまでお問い合わせください。



↑木立ダリア



↑ざる菊